

大学院同窓会の課題と現状

—全国各地で活躍の同窓生へ—
実践研究・評価を大学に寄せてください。

大学院同窓会会長 新 部 嘉 一 教育経営講座 1 期生

全国各地の教育行政機関・学校現場等でご活躍の修了生の皆様、当面するさまざまな教育課題と日々精力的に取り組まれていることと存じます。3月には20期生が全国に旅立ちます。日本の教育現場に新しい風を入れてくれることを期待したいと存じます。

ところで、「現職教員の資質の向上」を目指した新構想の大学院は、昭和60年3月に第1期生を送り出し現在に至っています。その間の修了生は4,000名を上回り、全国各地で教育実践を続けております。しかしながら、研究交流の場は、従来の所属ゼミであり所属学会であるなど限られたものでした。人と人との連携や情報交換ができない状況に歯がゆい思いをいたしました。こうした現状を踏まえ、このたび装いを新たに「上越教育大学大学院同窓会」が発足しました。

本会は、「会員相互の親睦と啓発をはかるとともに教育に関する諸問題に対して意見を交流し、併せて上越教育大学の発展充実に寄与することを目的とする。」と会則に述べています。私たちは、大学院でのプログラムを履修し、教育現場で児童生徒と直面しているという貴重な存在と自負しています。どうか、従前以上に大学との関係を密にし、交流を深め、大学を外から評価する一つの組織として上越教育大学の発展に一人ひとりが寄与しようではありませんか。

1 会員と大学との連携について

同窓会担当は、高田喜久司副学長、中村雅彦教授です。また、私たちには、それぞれ所属したゼミがあり指導教官がおられます。また、学会もあろうかと存じます。是非、連絡や情報を交換することのできる連絡体制づくりに御協力をお願いいたします。

2 都道府県やブロックでの組織づくりについて

都道府県やブロックでの組織づくりが進んでいます。代表者や連絡方法などの名簿も整備中です。また、総会や研修会にあわせ、学長団や教官の派遣・講師の依頼などは、遠慮なく大学事務局に申し出て下さい。最大限、対応するとのことをお話をいただいています。

なお、8月7日(日)、8日(月)には、関東甲信越ブロックの同窓会を東京で開きます。後ほど、各県の代表者を通してお知らせしたいと考えていますのでよろしくお願いたします。



10月1日、大学院同窓会発足式の様子。

○大学院同窓会への問い合わせ先

大学院同窓会事務局長 中村 雅彦
(自然系教育講座(理科)教授)
E-mail: masahiko@juen.ac.jp

学校教育学部同窓会の現状について(ご存じですか。)

学校教育学部同窓会会長 笠原 芳 隆 (社会コース2期生)

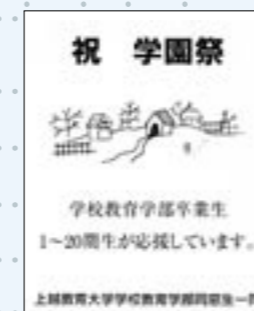
皆さんこんにちは。学部同窓会の笠原と申します。昭和61年卒業の2期生で、在学中は社会系コースに所属していました。実は現在も上越教育大学学校教育学部所属(勤務)しており、人文棟8階で仕事をしています。

ところで皆さんは、学部にも同窓会があるのをご存じでしたでしょうか。本会は「会員(卒業生)相互の連携と親睦を図り、併せて上越教育大学の発展に寄与すること」を目的に設立されました。地元で就職した卒業生が中心になって活動してきています。

主な事業内容は、

- ① 同窓会名簿の発行、
- ② 集会等の開催、
- ③ その他必要と認める事業の実施

となっています。同窓会名簿は原則として3年に一度作成しています。最新版(第5号)の発行が遅れていますが、現在新たに情報を収集しており、近いうちに発行する予定になっています。集会等の開催については、これまで同窓会総会を開いていません。(ですが、諸般の事情で現在少し延び延びになっています。申し訳ありません。)その他の事業としては、学園祭への協賛をしています。これは学園祭パンフレットへの広告掲載の形で、わずかの額ですが毎年続けています。



学園祭への協賛

これまで、卒業式の時に学部同窓会入会の案内をさせていただいてきましたが、このところ、会の趣旨に賛同し、入会金(終身会費)2000円を払って入会して下さる方が大変少なくなってきています。私たち役員が本会の趣旨を十分に説明し切れていないこともあります。同窓会の魅力が少々薄いということもあるのかなあと感じています。まだ他の役員と話し合いをしていないのでまったくの私見ということになりますが、今後は大学院同窓会のように、大学や在学生の皆さんとも相談しながらより魅力のある会とし、会員相互の連携と親睦を図り大学発展に寄与するという本会の目的をいっそう果たせるような事業の展開をしていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

